

各教科等における 「令和2年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

新学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されました。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科等の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、その具体的な姿を「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示し、「豊かな心」・「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的部分と付加的部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見直しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に合った適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

○ 何が書かれているかを的確に捉えよう！



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連付けてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



小学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- 数学的な見方・考え方を働かせ、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて事象や問題解決の過程を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
- 既習事項と関連付けたり、統合的・発展的に考えたりする態度を身に付け、新たな問題を見いだしたり、算数を学ぶことの意義や有用性を実感することができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①数学的な見方・考え方を働かせることができる学習活動を貫く数学的活動の充実

◇「日常生活に関連した問題を解決する活動」や「算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動」等を軸とした学習活動を設定し、授業中の児童の意識の流れに沿って展開する。

②自力解決の場の設定と集団解決の場の充実

◇自力解決の場や、集団解決の場において、数学的な表現の方法(具体物、図(絵)、数、式、表、グラフ等)を用いて問題解決に生かしたり、思考の過程や結果を表現して説明したりすることができるようにする。

③板書やICT活用の充実と学習を振り返る場の設定

◇本時の展開が分かる板書やICTの効果的活用を心がけるとともに、学習の振り返りの時間を設け、ノートに学習のまとめや気付き等を記すことができるようにする。

◇既習事項との関連を図るときには、前時までのノートを活用したり、対話的な学びや発信を計画的に取り入れたりするなど、振り返る場の設定をする。